

アセアンセンター第二回報告書

先日ミャンマーへ、二度目の訪問をした。

ミャンマーは雨季ということで、先方の企業からは街が洪水になったような写真が送られてきたりして、少し不安であったが到着してみればなんてことはなく、時たまおとずれる激しいスコールと前よりすこし高い湿度が雨季の実感だった。

私は参加していた展覧会の撤収があつて一日遅れてミャンマーへ入ったのだが、他のメンバーは私より一日早く入り、私が到着した時はセミナーにて公演を終えた後だった。なかなか盛況だったようだ。初日は皆と食事をして終え、二日目を迎えた。

二日目は企業へ訪問し試作品の確認である。コンセプトや資料などをともしっかりとまとめようとしているのがわかる。A4で15ページ程度資料を作ってきていた。

試作品に関しては求めていたような質のものは上がってこなかったが、資料や集めてきたサンプルなどから彼らの思いは伝わってきた。

そこからは毎日ミャンマーの企業と3-4時間に及ぶ長いMTGを繰り返し、何ができて何ができない、方針などを指示し、次の日にそのスタディを見ながらチェックするというのが続いた。

打ち合わせ後の時間に、ミャンマーを見たいと思い、知人からおすすめしてもらったところや、相手企業が友人だというコンテンポラリーアートギャラリーなどを見に行つた。

面白い作品がいくつもあり、地元ではとても有名なギャラリーらしかった。場所は雑居ビルのワンフロアで決して保管状況などはいいとは言えない。また展示というより倉庫のようで所狭しと壁に立てかけられている。雰囲気はまるで古書店のようだ。しかしそんな中から彼らは作品を引っ張り出し、これはどんなアーティストのこういった作品でこんな国際展に参加していると英語でずっとプレゼンしてくる。

真剣に買おうか迷うくらい面白い表現のものがあつた、しかし作品はまだ価格も高くなく、ギャラリストも英語で話し積極的。

経済規模は違えども、彼らの熱量と、彼らから学ぶこと、我々が失い、もう取り戻すこともできないが彼らが持っている大切なことは沢山あるなと感じた出張だった。

